



いなほ

稲積神社社報

第4号

平成7年11月1日発行



祈願を込めて三回撫でると願いが通う撫牛(境内天神社)

命継ぐもの



稲積神社

宮司 根津泰昇

神社と私達の間には、関わり合い、触れ合いの機会が数えきれないほどたくさんあります。私達の一生涯はすべてが神々を中心とした生活であるといっても過言ではありません。生命の維持には食生活が重要です。毎日、毎日食事を摂るにより生命を継ぎ、社会の習慣、風俗などを継承してゆくのも神々の恵みであります。このような社会の中で私達が、一生有意義におくることは、やはり信仰を持ち願う心を培うことでしょう。

二十一世紀の近代的世の中になり、合理的な生活を営もうとも、生命を大切にすることが、神の恩に報いる道なのです。そのために私達は、神様と共に、自分の人生を喜び、祝い、その事を神様に奉告し、さらに神のご加護をいただけるような生活を営むことが大切なことです。

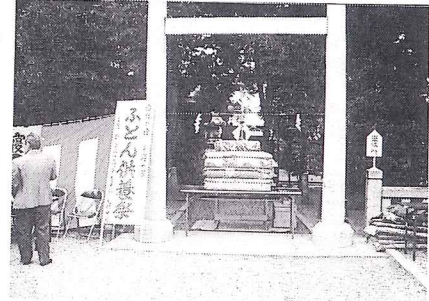
命継ぐ

食もの衣もの住むいへも

稲荷の神の恵みなりけり”

あしあと

感謝を込めて
ふとん供養祭



今後、ふとん供養祭が定着し県わた寝具商工会の発展と心あたたまる企画・活動が期待されます。

全国大会に参加して

崇敬青年会会長
樋川 久

第三十三回全国氏子青年協議会定期大会が、新潟県月岡温泉「ホテル泉慶」で行われ我々青年会は、山梨県氏子青年協議会佐藤久良会長を先頭に九名が、レンタカーバスで長野自動車道を走り、参加して来ました。

燃えろ若衆 まつり列島
うまい米、うまい酒、来なせいや良い国、新潟へ。

定期大会総会、名越三荒之助先生の記念講演。全国名物旅館でも有名な、ホテル泉慶大々広間「天平の間」でのレセプションとスケジュールを無事こなし、二次会は、カラオケスナックで、京都の八坂神社青年会と交歓会となりました。

全国銘酒コーナーへは、大澤酒造さんに、無理を聞いて頂き、吟醸日本酒二本を、

提供してもらいました。ありがとうございました。おかげさまで、大変好評でした。

二日目は、あいにくの雨でしたが、ホテル泉慶の名物女将の見送りを受け、越後一ノ宮弥彦神社へ向い、正式参拝をしてまいりました。

昼食は、寺泊で、ゆつくりと「海の幸」をたんのうし、家族、近所へのおみやげを買い込み、サイフを軽くして、長野自動車道へ中央道を、ひたすら眠りながら、無事帰ってきました。

来年は、山口県下関へ、「ふく」を、目的に参加する予定です。

第二回ゴルフコンペ

スポーツの秋の幕明けにふさわしく秋空の下第二回の神社関係者ゴルフ大会が九月二十一日、丘の公園清里ゴルフコースにて、五組二十名の参加を得て開催された。

当日は絶好のゴルフ日和となりナイスショット、好プレー、珍プレーが続出、和やかなうちに無事終了、場所を割烹きよ春に移し、表彰式、懇親会を行った。栄えある宮司賞（ベスグロ賞）は二回連続で塩島総代が、優勝は丹沢講元

が夫夫優秀な成績で受賞された。美味しい料理とお酒で反省会は夜遅くまでつづきました。おつかれ様でした。次回を春を予定（参加者募集）しております。



第2回稲積神社関係者ゴルフ大会

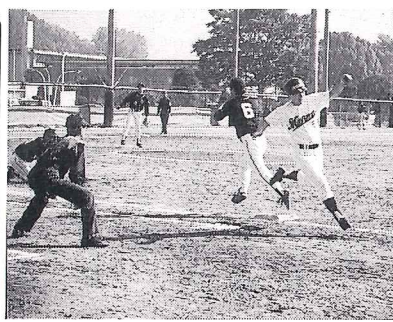
ソフト部大健闘

去る十月十五日緑ヶ丘球技場において第六十三回市民ソフトボール大会が開催された。当神社ソフト部は強豪梅めぐBクラスに出場した。

朝七時神社集合、必勝と怪我のないよう祈願し出発、グランドは朝から夏を思わせるほどの暑さであった。

我チームはエース秋山学を擁し試合に臨んだ。初戦はマルワクラブ、第一

試合とあって皆動きに固さが見られたが次第にペースを掴み4対2に下し二回戦へ、相手は正に百戦錬磨の古豪チーム甲府クラブ、白熱した試合展開となり両者譲らず6対6で時間切れとなり特別延長で5対4で勝ち進み、Bクラス昇格以来初めてのバート決勝へ進出、秋山投手を始め皆、ここまでの戦いですでに疲労困憊、決勝戦は皆最後の気力を振り絞り頑張ったが最後は力尽き、5対9で敗れたが、今大会の健闘はすばらしく選手にも大きな自信となったことだろう。次回春の大会が楽しみである。



雅楽会員募集中

稽古日 毎週水曜日
午後五時から七時まで

祭典行事暦

(十月～二月)

- 十月
 - 一日 ふとん供養祭
 - 金刀比羅祭
 - 二十九日～三十一日 稲積神社甲府伊勢講千社参り (北陸)
- 十一月
 - 七五三祈請祭
- 十二月
 - 古神札焼納祭
 - 三十一日 師走大祓
- 一月
 - 一日 歳旦祭(新年祈願祭) 天神祭
 - (学業成就合格祈願祭)
- 二月
 - 三日 節分祭
 - 初午の日 初午祭
 - 八日 針供養祭 天神祭
 - (受験合格祈願祭)
 - (そろばん上達祈願祭)
- 毎月 天神祭(学業向上) 家内安全、社業繁栄、方位除、交通安全、自動車清祓、学業成就、合格祈願、初宮詣、結婚式、命名、家相、厄除等、ご祈禱は毎日受付けております。又、地鎮祭、上棟式、家堅竣工祭など出張祭も受付けております。(詳しくは社務

《学生の方々に》

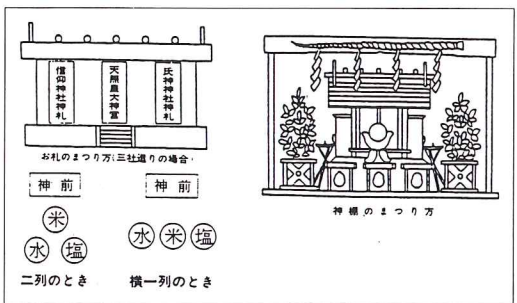
所までお問い合わせ下さい。(特別のご祈願を行っております。)

初穂料 三千元より
(学業成就、合格祈願、就職成就、心身健全、縁結び等)

神棚の祀り方

神棚は一家の中心となる神聖なものですから、清らかで明るく高い所がよいでしょう。向きは南向きか東向きがよいでしょう。

神社からお札を戴いたら神棚にお祀りし、一家が心をあわせ繁栄する事を祈り、神様



の恵み、祖先の恩に感謝する生活をおくりましょう。

古いお神札の納め方

一年間、お守りいただいた古い神札は、粗末にならぬよう神社に納めます。神社では浄火により焼納しますが、神社によっては一月十五日の小正月などに、左儀長やどんど焼きの神事として焼納する神社もあります。

旅行先などで戴いたお神札なども一緒に納めて戴いてかまいません。

新年特別祈願祭

当社では元旦午前零時より新年初祈願祭を斎行しております。受付にて住所、氏名、ねがいごとをお書きになり、一年の御加護を戴きますようおすすめいたします。

平成八年 厄年表(数え年)

		前厄		大厄		後厄	
		S三十二年		S三十年		S二十九年	
女	男	女	男	女	男	女	男
13歳	13歳	32歳	41歳	33歳	42歳	34歳	43歳
		S四十年		S三十九年		S三十八年	
19歳	25歳	33歳	42歳	34歳	43歳		
		S三十九年		S三十八年			
37歳	61歳						
		S三十八年					

人の動き

帰國 根津成雄氏
宮司 神職身分一級
六月一日 享年六十九歳



同氏は昭和三十四年五月二十日稲積神社に就任以来戦後の荒廃した神社をりっぱな社に復興した。

斯界においては甲府支部長、神社庁理事、本社本庁参与、神社庁副庁長の要職を歴任、斯界発展に多大な功績を残された。又保護司として青少年の更生にも力を尽された。

権祢宣 三井寅男氏
四月二八日 享年六十八歳



同氏は昭和六十年九月奉職以来、前宮司を補佐し社務に勤めた。又稲積神社甲府伊勢講世話人として伊勢講発展に尽力された。

職員紹介



権祢宣 安藤千里

三十八年十一月二十六日生
平成七年四月一日付を以ちまして、仙台市大崎八幡神社より転任して参りました。

武田神社奉職時以来二度目の甲府の地ですが、心新たにここ「正ノ木さん」稲積神社の御社頭の一層の繁栄の為、努力して行きたいと存じます。

今後とも何卒宜しく御指導方お願い申し上げます。

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清浄なる火に神宿ると言われております。

この古事にちなみ、当社社では、ちょうちんに住所、氏名、家内安全、商売繁昌祈願を書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の股賑を図っております。

宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を頂く日々をお過しになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料 一灯一年間 五千円以上

根津成雄宮司を悼む

土屋 八枝子

稲積神社前宮司、根津成雄に就き書くようにと申し付けられたものの、逝去後漸く四ヶ月になろうかというところで、不意に心に浮ぶ事々の総て懐しく、儂く取り留めのない思いになる、というのも宮司成雄は、たった一人の肉身であり姉弟であった。

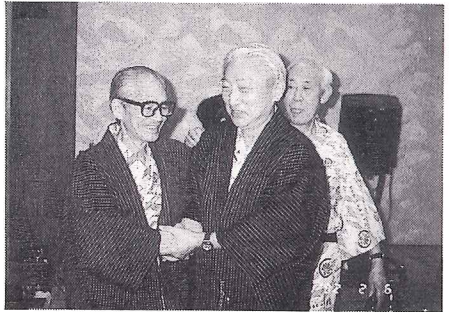
成雄は幼い頃からあまり丈夫ではなく、両親が心配する通りいつも大病となり急に家の内がひっそりしてしまったものである。掛り付けの許山胃腸病院の茂隆先生がいつも往診して下さった。先生が「我慢強いのも病気にはあま



りよくないよ」と言われた言葉は今も覚えていますが、我慢強く優しい子、というのが弟の定評であった。その一つに、小学校四年生頃か、朝からお腹の痛いのを痛いとも言わず、午後の体操の授業を休み校庭のポプラの木の下に坐ってその時間が終わるのを待っていたという。私共の家は湯田小学校の正門の前という位であるのに、ポプラの下から抱えられて帰って来て大変、許山先生の診断は盲腸炎、それも手後れ、「生命の保証は受け負いかねる」との一札に父は承諾の印を押しての手術であった。創あとの縫合は出来ずた

ぷり一ヶ月余をかかっていたの退院であった。入院中を見舞って下さった方々への如何にも子供らしい心使いの話を母から聞かされ、その面白い優しい性格が記憶に残っている。

編上げの靴とサージの半ズボン帽子のカバー真白し弟昭和十年前後の如何にも坊っちゃん型の弟の姿であった。



小学校を卒えた此のひ弱な子を父は、島根県出雲市の出雲大社国学館へ入学させた。数え年十三歳であった。その頃の出雲はさすがに遠く離れた土地で、祖父母はまったく反対であったが、神職を継ぐ家の総領としては当然の事である。国学館で過ごす年々をよくまあ無事だと思わせたのに、三年生頃であったか「赤痢の疑いあり至急」との電報に父は急いで出掛けた。事の次第では付添いを姉の私にと言いついた通り、父に替り夏休みの一ヶ月を病院で過ごし

たが、若さは楽しみを探し出す天才のようなもので、二人で楽しい思い出を作る事が出来た。それも病気が軽かったのであるが、其の病気の原因

たるや、教練の授業後下級生に饅頭を買いにやらせ、上級生は餡を食べ、下級生には皮を食べさせた結果だそう、出雲故、おちくし大国生命の罰はきめんであったという事であろうか。病氣ばかり書いたが、この赤痢騒ぎを機に身体の不調を聞かなくなった。その変りのように戦争が日に日に激しくなり、若者は学問を途中で止め戦場へ狩り出される時局となった。幸い学業を終えた弟は鶴岡八幡宮に奉職し、私は結婚し高円寺に住まっていた。昭和十九年の東京大空襲の頃、食料の何も彼もが少しばかり配給されていた頃を、八幡宮の神饌物の下げ戴いた品々を鎌倉から高円寺まで何回か届けてくれた。神様

よりのお供物とお隣にも、お向いにも分け合って、弟さんは福の神ですと嬉ばれたものだった。心根のやさしく、我慢強い人柄なのに、玉に瑕は「否」と言えない事と両親は心配したものであった、が考え合わせてみるに、人の声をさえぎらず、我慢強く己の身に替えて、人様に尽し、神に仕えた弟であった故に、このように多くの方々から敬愛されての生涯を終えられたの

は、何物にも替え難い良い人生であり、有難い事であったと思えるのである。多くの方々天地神明とに、弟に代わり厚く感謝の心を抱くものである。 合掌

成雄五十日祭

拜殿を囲める樹々の繁みより蟬の声降る祝詞に交じる

冥界に還る弟か屋根棟を離ると祀る五十日祭

これの世に触るる最後ぞ弟の遺骨の壺に額押し当つ

山野辺の奥津城所父ははに添ひて納むる弟の骨壺

